

頑張っている北海道

—— 厳寒の豊富町に「浜防風」の天才を訪ねて ——

札幌市都市局
技術士（衛生工学部門） 岩 村 俊 二

1 はじめに

またまた、恥を忍んで投稿します。私は、北海道技術士センター地域産業研究会の地域活性化分科会に属しています。7年以上会に属していますが、貢献度最低の不良会員であり、他の会員の皆様の足を引っ張り続けております。

さて、当分科会は、特にたびたび寿都町を訪ね、多くの町民の皆様と様々な形で交流を重ねています。もう7年近く前に寿都町を訪れた際に、農業部門の佐藤先生の一言「寿都町は浜防風の栽培に適している」が何故か気になっていました。昨年12月に久しぶりに佐藤先生とお会いしたところ、豊富町では浜防風の栽培が盛んに行われているようだと言。何故、記憶力の悪いこの私の頭に見たこともない「浜防風」という言葉が残るのか？ さらに忘年会で偶然合った豊富出身の友人にちょっと聞いたところ、「それは私の知り合いだよ、言えば見せてくれるよ」と言う返事。この偶然はもしかしたら何かのお告げかもしれない。

ここで不良会員の汚名挽回とばかり、10数年前から浜防風の栽培に取り組んでいる宗谷地方の豊富町の農家を訪ね、冬期のハウス栽培を見てきました。インターネットから得た情報では、7人の生産組合で栽培を行っているとのことでしたが、現在は白田農場で白田健二夫妻だけが生産を続けていました。

厳寒の地で冬期の浜防風のハウス栽培を見せていただき、話を聞かせていただき、食べさせていただき、ただただ、その天才的な発想と工夫と努力に感服しました。まさに「為せばなる、為さねばならぬ何事も、為さぬは人の為さぬなり」を実感しました。

私自身、浜防風を見るのも、意識して食べるのも初めてであり、農業に対する知識もないことから、随所に勘違いや間違いがあると思いますが、とりあえず見て聞いたままをまとめてみました。

2 何故急激に減少したか

浜防風という植物とその植生状況について書いてみます。浜防風は、地下茎を持つせり科多年草の植



白田農場から利尻岳を望む



白田夫妻と私

物で、戦前は日本全土の砂浜に分布していました。別名「八百屋ポウフウ」と呼ばれ、旬の野菜として食卓を飾っていたそうですが、今では非常に希少な植物となってしまいました。

一般に、地下茎の植物は、笹や竹にみられるように食用にされても、地下茎が残ることから急激に減少することはありません。また、浜防風は、開花後に非常に多くの種を付け、砂地でなくとも発芽します。さらに地下茎からも次々と芽を出すことから、繁殖力は強く栽培自体は簡単な植物です（ただし、地下茎は水はけの悪い土壌では生育しないようです）。

では何故、急激に日本中に砂浜から姿を消してしまったか。意外と単純な理由のようです。浜防風は、砂浜で目に付きやすく、新芽が食用となるために、花を咲かせる間も、実を实らせる間も、地下茎に養分を蓄える間もなく、取られ続けられたために急激に減少したようです。さらにその減少が希少価値を生み、海岸の隅々まで乱獲されてきたようです。ここ豊富町でも天然の浜防風の姿は激減しているようです。

これに似た植物にたらの木があります。たらの木自体は枝を地面に刺しておけばすぐに付きます。私もニセコの土地に挿木し、育てていました。しかしながら、春に新芽が出ると片っ端から取られるために、花も咲かすことができず、木自体もさっぱり生育しません。特に若木は背が低いためにとことん新芽をむしられてしまい2～3年で枯れてしまいます。ちょっと盗採を防御すれば、数年ですぐに大き

くなり、多量の新芽を付け、多少食用に採取してもびくともしません。これに目をつけ今では、たらの木は多量に農家で栽培され、スーパーにも廉価でたくさん並ぶようになりました。

3 露地栽培

豊富町での浜防風の栽培は、約10年前から白田氏と数人の農家の仲間で砂浜と畑で取り組みはじめたそうです。様々な工夫をこらし、3年目には札幌青果市場に出荷するまでになったそうです。しかしながら、自然界で減少しすぎたために、旬の山菜というよりも高級食材となってしまう、大きさを揃える、曲がったものは省く、砂を完全に除去する等が要求されたために、手間の割には利益の少ない作物であったそうです。また、集荷時期が短期間で、労働力（手作業）を集中することが要求され、この地域での大量栽培には、多くの課題があったそうです。現在道内でも露地栽培は、厚真や伊達等で行われているようです。

4 天才的な発想

高級食材となっていることから、冬場の忘年会や新年会時期に集荷できれば、収益が上がるのは分かっていました。温室に種を蒔くなど様々な工夫をしても面積の割に収穫量が少ないなど生産につながる手立ては中々見出せなかったそうです。

4年前の冬に、ボイラー室に置いておいたジャガイモが発芽したのを見て、もしやしてとひらめいたそうです。浜防風の地下茎もジャガイモみたいに発



露地栽培（1994 7月の開花）

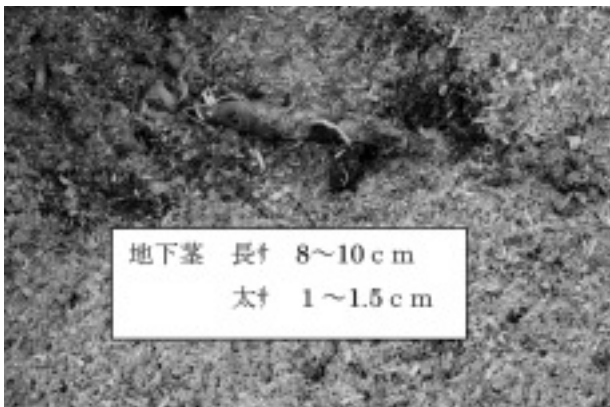


露地栽培の仕分け作業（1993 5月）

芽しないだろうかと。さっそく雪の下の畑から浜防風の地下茎をボイラー室に置いてみると、によきによき芽が出たそうです。20 日程度で 20 cm くらいまで発育したそうです。この芽を摘むとまた芽がでたそうです。3 回摘むとさすがに、地下茎もすかすかになり発芽能力を失ったそうです。冬に物置に箱に入れたジャガイモが芽を出して箱を破ってやっと気づき、「ちょっと暖か過ぎたか」としか考えない私のような凡人との差を痛感しました。

そこで、

- | | |
|-------------------------------------|-------|
| ① 秋に露地の畑に種を蒔きます | } 外の畑 |
| ② 春に出た芽を適当な数に間引きします | |
| ③ 秋に花を咲かせ種を取り、枯れるまで待ちます（地下茎が形成される）。 | |
| ④ 10 月に地下茎を掘り起こし、種を植えます。 | |



- | | |
|--|-------|
| ⑤ 11 月に掘り起こした地下茎をびしりと並べて温室の土に植えます | } ハウス |
| ⑥ 12 月に、土を 20 度に加温します | |
| ⑦ 20 日程度で芽が 20 cm に伸びます。→ 12 月の前半～中旬に出荷（忘年会時期） | |
| ⑧ 芽を摘むと 20 日程度でまた芽が出ます。→ 1 月の初旬に出荷（新年会時期） | |
| ⑨ 芽を摘むと 20 日程度でまた芽が出ます。→ 2 月初旬に出荷 | |
| ⑩ 一冬で 3 回の収穫が可能となります | |
| ⑪ 4 月に土と地下茎を廃棄します | |
| またまた工夫 | |
| ◎ 砂を取ることに苦労したことから、土の上にお | |

がくずを入れます。

- ◎ おがくず深さは一番売れ所の寸法の約 20 cm にしました。
- ◎ 芽がおがくずから出たら掘って芽を取り、又おがくずをかぶせる。
- ◎ 砂落しも、寸法合わせも不必要になりました。
- ◎ 3 回目の 2 月にはさすがに地下茎も弱まり、細い芽しか出なくちょっと価格は下がるそうです。ハウスには、
- ◎ 一床に地下茎を 2 m の幅に 20 固を 8 cm 間隔で 15 m、全部で約 3,000 植えます。
- ◎ これで、3 回で約 100 kg の収穫があるそうです。
- ◎ 現在は 3 床で 300 kg の収穫があります。
- ◎ この地下茎を取るためには約 1 反(1,000 m²)の畑が必要です。

5 露地栽培とハウス栽培

前記したように、栽培自体は砂地では勿論のこと、水はけの良い土でも可能です。ここで、露地栽培とハウス栽培の違いをまとめてみると下表のようになります。付加価値という点では、ハウス栽培が圧倒的に有利ですが、葉や花もてんぷらにすると大変美味しそうで、露地栽培も中々魅力的です。

6 寿都町で「ハマボウ風太君」を摘んで食べる (私の勝手な夢かもしれない)

ここで、また寿都町の話に戻りますが、札幌のような都市に住む我々は、日帰り可能な場所で広大な砂地で初夏の海を見ながら、浜防風を摘むことに大きな魅力を感じます。名前も寿都町のアイドル「風太君」にもじって「ハマボウ風太」なんてなれば、ちょっと行って摘んで、ついでに海の幸と一緒に食べることは、最高の贅沢に思え、毎年の癖になりそうな気がします。

最後になりますが、白田農場は、牛 200 頭以上を飼育する大きな農場で、酪農は息子さんに任せ、白田氏は浜防風の栽培に専念しているそうです。今も工夫を重ね、より美味しい浜防風の栽培に取り組んでおり、その技術を伝えていきたいそうです。多く



ハウス内（2 m×15 m に約 3,000 個の地下茎）



ハウス全景

	面積当収穫量	単価	商品部位	香	収穫時期	手間のかかる作業
露地栽培	少	廉	茎、葉、花	多	夏	砂取 サイズ揃え
ハウス栽培	多	高	茎	少	通年可	露地間引、地下茎堀、ハウス植替、温度管理

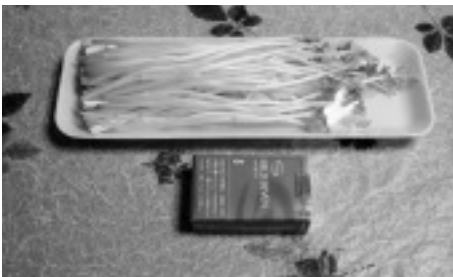
の取材や農家の方が来訪するそうですが、実際にこのハウス栽培を実践する方はまだいないそうで残念がっていました。栽培が普及すれば市場価格が下がる事なんか、全く気にしない白田氏の存在は、利尻岳を臨む雄大なサロベツ原野よりも大きく感じられました。



寿都町マスコットキャラクター「風太」



スティック（香りが最高）
和え物（しっとりした大人の味）



これで約 100 g